

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学を代表して心から歓迎いたします。

ご家族の皆さまにおかれましては、誠におめでとうございます。今日、こうして来賓の皆様方とともに、新入生の入学をお祝いすることができることを、本当に嬉しく思っています。

日本福祉大学は 1953 年、今から 73 年前に鈴木修学先生により建学されました。鈴木先生は建学の精神のなかで、「この悩める時代の苦難に身をもって当たり、社会の革新と進歩のために挺身する志の人を、この大学を中心として輩出させたい」と述べられています。第二次世界大戦が終わり、混乱した社会のなかで、これからの未来をつくる志のある人財を輩出しようと本学をつくられました。あれから 81 年が経ちました。今の日本は、そして世界は幸せになったと言えるでしょうか。孤独や孤立、格差や分断が進行し、自国第一主義のもと多様性や公正性、包摂性が脅かされ、いまだ戦争が終わる光が見えません。

その意味で私たちは、今現在も悩める時代に生きているのです。日本福祉大学は、いつの時代もその苦難に向き合い、挺身できる志の人を育ててきました。全国各地で 10 万人を超える同窓生が活躍していることは大きな誇りです。

日本福祉大学は、福祉を平仮名で「ふつうのくらしのしあわせ」と表現しています。ふつうのくらしのしあわせ、この当たり前のことをすべての人が享受できる状態、それをウェルビーイングといいます。本学は「ふくしの総合大学」として、9つの学部、6つの大学院研究科があります。それぞれ所属は違っても、ふくし、ウェルビーイングの実現にむけて探求をしているのです。

1985年1月28日、長野県の犀川ダム湖でバス事故が起きました。大学の授業でスキー場に向かっていた22名の学生と教員1名、バス乗務員2名、25名が亡くなりました。22名のうちの一人は、私の高校の同級生でした。彼女は児童福祉を学ぼうと日本福祉大学に入学しました。ここ美浜キャンパスの友愛の丘には慰霊碑があります。ぜひ一度、訪ねてみてください。そこには穏やかで優しい風が吹いています。私はそこに立つたびに、「ふくし」の尊さと有難さを教わります。「ふくし」とはあつて当たり前のものではないのです。本学が「ふくし」を大切にするのは、志半ばで亡くなった先輩たちの想いを今もしっかりと継承しているからです。

日本福祉大学には常設型の災害ボランティアセンターがあります。3.11の東日本大震災を契機に、学生と教職員が一緒になって設立しました。あれから15年。熊本、長野、能登など各地でおこる地震や豪雨など自然災害の都度、被災地で活動をしてきました。そのなかで「ふくし」はある日、突然に奪われるという現実と同時に、被災した人たちが復興していく後ろ姿を通して、人間の有する力の可能性を教えられてきました。こうした本学の災害ボラセンの源流には、阪神淡路大震災、さらには大学が創設されたばかりの頃、1959年の伊勢湾台風での救援活動の伝統があります。

「ふつうのくらしのしあわせ」が実感できるためには、まず自分や家族が健康であること。困ったときに相談できる人がいること。自分の役割や居場所があること。でもそれは自分ひとりだけでつくられるものではありません。多くの人たちとつながり、他者と共に生きていくことで、「ふくし」は実現していくのです。これからあなたたちは、ふつうとは何か、暮らしとは何か、そして幸せとは何かを、自分の思考と体験を通して探求してみてください。

日本福祉大学には開学当初から障害のある学生が多く学んできました。そのなかで障害のある学生とない学生が共に学び合うということが、当たり前の風景になっていることも本学の誇りです。今では、留学生や外国にルーツのある学生も多く在籍しています。LGBTQをはじめとする性の多様性も尊重されなければなりません。本学では、こうした学生同士がともに学び合うということを「共修」(ともにおさめる)として大事にしてきました。「ふくし」を探求するにはとても優れた環境にあるのです。

それぞれの専門分野の学びを基礎にして、学部や学問領域の枠を越えた、多様な学びを大切にしてください。これからの時代は応用力が不可欠です。そのために学生時代、いろいろなフィールドにも足を運んでみることをお勧めします。今まで出会ったことのない人たちと対話をしてみてください。勇気を出して新しい世界にふれてみることを。これまで縛られてきた学歴や偏差値といったものさしでは測れない世界があります。大人が作り出してきた既成の枠組みを疑い、新しい「ふくし」の価値観を自分の体験を通して見つけてください。

そんな充実した学部・大学院での生活が過ごせるように、私たち教職員は、全力で皆さんを応援します。何か困ったときには、遠慮なく「助けて」と言ってください。皆さんが安心して、助けてと言えるキャンパスにしていきたいと考えています。

入学式にあたり、そのことを皆さんに祝辞としてお伝えし、こうして、皆さんと出会えたことに感謝して、お祝いの言葉といたします。

あらためて、ご入学、本当におめでとうございます。

2026年4月1日

日本福祉大学 学長 原田正樹